

第11回 チャレンジカヌーツーリング（11年目）

1 事業概要

ダムの放流のため、ショート編の3回目は、予備日の開催となったが、参加者は、カヌーの漕艇を楽しむことができた。また、水辺で安全に活動するための知識や態度を身に付けることができた。ロング編も予備日の開催となったが、10kmのツーリングを全ての参加者が完漕し、達成感を感じるとともに、肱川の自然の素晴らしさを感じることができた。



2 事業の目的（ねらい）

カヌーツーリングを完漕することで、達成感や自然のすばらしさを感じるとともに、地域の活性化や清流「肱川」の美化を図る。また、水辺で安全に活動するための知識や態度を参加者が身に付けられる講義や演習を実施し、カヌーによる体験活動の普及を後押しする。

3 企画のポイント

「ショート編」では、カヌーの基本的な漕艇方法を学ぶ「平水版」の他に、水辺で安全に活動するための知識や救出時に役立つ知識を学べる演習、3kmのミニツーリングを含む内容とし、体力に不安をもつ参加者も申し込みやすく、カヌーを安全に楽しく学ぶことができるように構成した。「ロング編」では、10kmツーリングを安全に実施するため、参加条件を過年度完漕者または、過年度、今年度の「ショート編」参加者であることとした。さらに、初日に平水版の実習を取り入れ、参加者がカヌーに乗る時間を設け、より安全に翌日のツーリングを行えるようにした。

4 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家

5 共 催 大洲市・大洲市教育委員会・大洲市カヌー協会

6 後 援 国土交通省四国地方整備局大洲河川国道事務所

7 協 力 大洲高校カヌー部

8 期 日 【ショート編】第1回：令和2年 7月18日（土）～19日（日）
 第2回：令和2年 7月23日（木）～24日（金）
 第3回：令和2年 7月25日（土）～26日（日） 延期
 予備日：令和2年 8月 9日（日）～10日（月）
 【ロング編】 令和2年 9月12日（土）～13日（日） 延期
 予備日：令和2年10月 3日（土）～ 4日（日）

9 場 所 愛媛県大洲市肱川【ショート編】約3km【ロング編】約10km
 国立大洲青少年交流の家（カヌー研修場を含む）

10 対 象 小学5・6年生親子、中学生、高校生、一般

11 参加人数 【ショート編】第1回：25名 応募者数：119名（定員20名）
 第2回：25名 応募者数：130名（定員20名）
 予備日：26名 応募者数：98名（定員20名）
 【ロング編】 25名 応募者数：42名（定員50名）

12 参加費 【ショート編】小学生1, 850円 中学生以上1, 880円

【ロング編】小学生2, 360円 中学生以上2, 390円

13 講師 大谷 裕之氏(日本カヌー連盟公認指導員)、大洲市カヌー協会会員
多田羅 英花氏(カヌースプリント・全日本ナショナルチーム)
国立大洲青少年交流の家職員

14 日程

【ショート編】 13:00 13:30 16:30 17:30 19:30 21:00 22:30

受付	カヌー実習 (平水版)	入所 OR	夕食 ・ 入浴	【講義】シグナル コミュニケーション 【演習】救助ロープ作り	自由時間 入浴 就寝準備	就 寝
----	----------------	----------	---------------	--------------------------------------	--------------------	--------

6:30 9:00 12:30

起床	清 朝 掃 食	カヌーツーリング(3km) 菅田父橋～柚木カヌー艇庫				解散
----	------------	-------------------------------	--	--	--	----

【ロング編】 13:00 13:30 14:30 17:00 19:00 20:30 22:30

受付	開会式 入所OR	カヌー実習 (平水版)	夕食 ・ 入浴	【講義】 ロングツーリング	自由時間 就寝準備	就 寝
----	-------------	----------------	---------------	------------------	--------------	--------

6:30 9:00 9:30 13:30 14:00

起床	清 朝 掃 食	移 動	カヌーツーリング(10km) 八多喜祇園河原～長浜河口	昼 食 清掃活動	閉 会 式	移 動
----	------------	--------	--------------------------------	-------------	-------------	--------

15 活動内容

(1) ショート編

実習：カヌー実習(平水版)(13:30～16:30) 講師：国立大洲青少年交流の家職員

大雨によるダム放流のため、予定されていた第3回目は実施できず、予備日の実施に至った。1日目は、カヌー研修場でのカヌー実習(平水版)を通して、カヌーの基本的な操作について学ぶ演習を行った。参加者は、カヌーの漕ぎ方や乗り降りについて学び、翌日のツーリングに向けて、笛の合図に合わせて陸上や水上で2列や1列になる隊列移動をした。また、参加者に十分な漕力を身に付けてもらうため、上流に向けて艇を進めた。橋脚との間にできた狭い水路をくぐり抜ける課題などに取り組み、参加者は基本を確認しながら演習に励んだ。



演習：救助ロープ作り(19:30～21:00)

講義：シグナルコミュニケーション(20:30～21:00) 講師：大谷裕之氏

夜間の講座は、大谷氏を講師に招き、溺水者の救助に役立つ救助ロープを作った。これは大谷氏が考案して広めているもので、ペットボトルとPPロープ等、身近にあるもので簡単に作ることができる。参加者は各自が持参したペットボトルに、冒頭で学んだ「もやい結び」や「とっくり結び」を確認しながら救助ロープを完成させた。その後ホールに移動し、救助者役と要救助者役と、それぞれ入れ替わりながら、実際に体験して使い方を身に付けた。



また、ツーリング時に使用できるハンドサインやツーリングの心構えについても学び、注意喚起と意欲

を高める時間とした。

実習：ミニカヌーツーリング(9:00~12:30) 講師：大洲市カヌー協会会員

「ショート編」2日目は、3kmのミニツーリングを行った。1日目のカヌー実習により、参加者は漕艇方法が身に付いており、スムーズにカヌーを操っていた。参加者は瀬（流れが少し激しい部分）では、流れに負けないように力強いパドリングをしたり、普段見慣れない視点からの景色を堪能したりしていた。カヌー研修場前の河原に到着した後、1日目に作った救助ロープを使い、それぞれに救助訓練を行った。



(2) ロング編

開会式：(13:30~14:00)

開会式では、初めに主催者である国立大洲青少年交流の家所長・向井繁一が挨拶を述べた。次に、国土交通省四国地方整備局大洲河川国道事務所長・秋山慎吾氏、大洲市長・二宮隆久氏、大洲市カヌー協会理事長・島村弘幸氏にご挨拶いただいた。また、カヌースプリント全日本ナショナルチーム・多田羅英花氏にも参加いただいた。

実習：カヌー実習(平水版)(14:30~17:00) 講師：国立大洲青少年交流の家職員、多田羅 英花氏

過年度完漕者または、過年度、今年度の「ショート編」参加者だったので、すぐに全員がスムーズに漕ぐことができた。初めにカヌー研修場から上流まで進み、その後は、下流の臥龍山荘付近まで下った。参加者は、臥龍山荘手前の沈下橋をくぐり、カヌーからの景色を楽しんだり、記念撮影をしたりするなど、それぞれがゆったりとした時間を過ごしていた。

講義：ロングツーリング(19:00~20:00) 講師：国立大洲青少年の家職員、多田羅 英花氏

夜間の講義は、交流の家の職員からロングツーリングに向けての見直しをもつことができるようにコース紹介を行った。その後の多田羅氏の講義では、参加者が多田羅氏に質問をする形式で進めた。子どもだけでなく、保護者からも多くの質問があり、参加者が非常に興味をもって講義に参加している様子が感じられた。

実習：カヌーツーリング(9:30~13:30) 講師：国立大洲青少年交流の家職員、大洲市カヌー協会会員、多田羅 英花氏、大洲高校カヌー部生徒

参加者は交流の家からバスでスタート地点の八多喜・祇園河原に移動した。参加者を3つのグループに分け、それぞれの班にリーダーとなる交流の家の職員やサポートをするカヌー協会会員、大洲高校カヌー部生徒を配置した。準備体操をした後、各グループで掛け声をあげるなどして出漕に向けての雰囲気を高めていった。

向井所長による太鼓の合図で、一班20名程で隊列を組んで長浜河口に向けてのスタートを切った。10kmのツーリングとなるので、白滝地区、大和地区でのトイレ休憩を挟み、現役で動く我が国最古の道路可動橋である長浜大橋、通称赤橋のゴールを目指した。

コースの途中には、毎年向かい風が激しくなる部分があるが、今年は風も無く、順調に全員が漕ぐことができた。また、全日本ナショナルチームの多田羅氏と会話をしながら、肱川の自然を堪能する参加者も見られた。赤橋のゴールの際には、橋の開閉を行い、参加者はゴールした達成感と感動を味わうことができた。閉会式の後には、参加者で肱川河口の清掃活動も行った。



16 参加者の声

参加者の事後アンケート結果を以下に示す。

<ショート編>

*満足：90.8% *やや満足：9.2% *やや不満：0% *不満：0%

今回は、是非ともロングにチャレンジしたいと思いました。天気も回復して本当に恵まれた1泊2日となりました。スタッフの方々には、感謝ばかりです。

ボートを運ぶのが大変でした。でもカヌーはとても楽しかったです。またやりたいです。

コロナ対策がしっかりされていて、安心して参加できました。

<ロング編>

*満足：92% *やや満足：8% *やや不満：0% *不満：0%

山や川の色、鳥のさえずり、川や海の臭い、水の冷たさ等、五感を使って自然を体感することができました。

楽しかったです。ずっと続けていってください。

スタッフの方々、大洲高校の皆さんのおかげでとても楽しく、また挑戦もする事ができました。本当にありがとうございました。



17 事業の成果

肱川の中流域のおよそ3kmのミニツーリングを含む回を「ショート編」、下流域のおよそ10kmのロングツーリングを含む回を「ロング編」で募集した。「ショート編」は、定員20名に対し毎回5~6.5倍の応募者があり、非常に人気の高い事業であったと考えられる。また、カヌーの漕艇方法など基本的な内容を含み、未経験者でも楽しく活動できるようにしたため、カヌーを通じた自然体験活動の普及啓発という面においても効果的であったと考える。「ロング編」は、過去ロングツーリングを経験したリピーターや、ショート編を経験し、ロング編を申し込んでいた家族が多く見られた。11回目の事業となり、ロングツーリングを楽しみにしている参加者も増えてきている。ツーリングの前日には、平水版の実習を取り入れたことにより、久しぶりにカヌーに乗る参加者も、ツーリング当日にスムーズにカヌーを漕ぐことができたと思われる。今年度は、地元の大洲高校カヌー部の生徒や全日本ナショナルチームの多田羅氏に参加していただいたことで、例年以上に盛大な事業になったと感じている。



18 事業の課題

天候に左右される事業のため、「ショート編」「ロング編」ともに予備日の開催となった。多くの研修支援や事業が重なる時期に当たるので、予備日の設定が難しいが、参加者のニーズに、できる限り対応した計画を今後も行っていきたい。



(担当：主任企画指導専門職 武藤健太郎)

